

ジオパーク全国大会十勝岳大会

参加日時 2025/9/27(土)～9/28(日)
伊達開来高等学校 科学部
3-E 五十嵐美咲

開会式の後、各地を巡って与えられたミッションをグループでこなし、十勝岳が起す噴火の影響と持続可能な地域社会の実現について考え学びました。

上富良野町郷土資料館



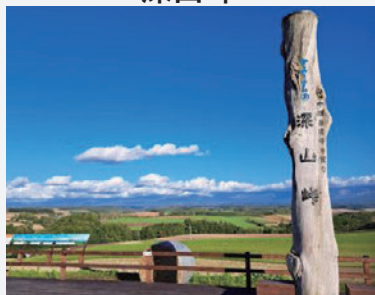
上富良野町郷土資料館で、大正時代に起きた十勝岳大噴火の映像や泥流によって曲がった線路、泥流の中から掘り出された木を見ました。泥流自体の温度は低かったようですが、泥流が森林を破壊しながら町まで流れてきたことによって木や岩石を大量に含んだ泥流が多くの被害をもたらした。濃霧で視認性が悪く状況把握ができなかったこと、約25分という短い時間で泥流が町にまで到達したことなど、当時の出来事について様々なことを知ることができました。

凌雲閣では、女将さんから旅館ができた時の話を聞きました。旅館を作り始めた当時は、馬一頭で山奥まで資材を運び、温泉に人が入れるように作業していたと聞いて非常に地道で心が折れそうになる作業をしているように感じました。

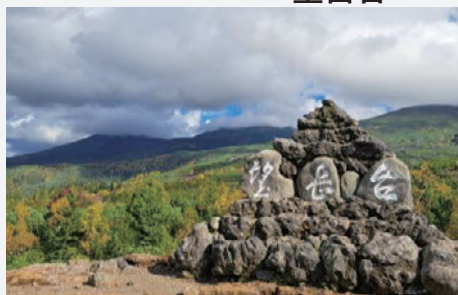
凌雲閣



深山峠



望岳台



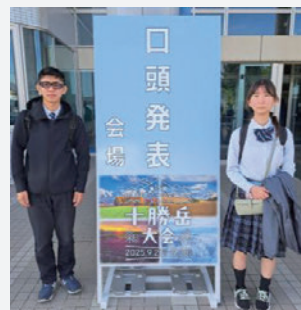
望岳台では、登山道の途中にロープと鉄杭があり、そのロープの足下に右上の写真のような看板がありました。看板には、登山道のロープが切断されていることについて書かれていました。ロープを切断した者が必ずしも人間とは限らないようですが、このような看板が設置されるということは人為的なものと判断されるような切られ方が多発していたのだと思いました。また、登山道の入り口にも看板が置いてあり、そこには上記の内容と登山道から離れると足下が崩れやすくなっている危険だということが書かれていました。また、登山道の入り口付近に本来であれば生育していないであろう外来種の樹木が生えていました。このような絶景が観光資源となり地域活性化のエネルギーとなる一方で、外来種の流入などの問題が発生していることを体感することができました。

深山峠では波状丘陵を背に集合写真を撮りました。

上富良野町体育館コミュニティセンターで口頭発表を行いました。

私たちのように部活動で研究したことを発表している人はあまりおらず、どちらかというと本校の伊達学に近いような感じで、自分の住んでいる地域のジオパークについて調べたことを発表している人が多かったです。

発表本番では、緊張してしまい台本から目を離して離すことができなかったり、練習時より早口で話してしまったり、上手く発表することができませんでした。しかし、今回の大会に参加したおかげで高文連では、早口になることもなく、落ち着いて発表できたように感じます。



1日目

2日目